白神トピックス

「あきた白神米」で能代工業バスケットボール部を応援　ＪＡあきた白神

全国制覇を目指す能代工業高校バスケットボール部を応援しようと、ＪＡあきた白神と能代市は６月11日、同部の寮生と下宿生に向けて１人１俵（60kg）、計37俵の「あきた白神米」を寄贈しました。この取り組みは「バスケの街づくり」の一環として行われており、今年で７回目となります。

贈呈式で佐藤組合長は「地元で一番おいしいあきたこまちを食べて、粘り強く戦い、ここ能代に日本一を持ち帰ってきてください」と激励。また、遠田主将は「能代市民の期待に応えられるよう、このお米を食べて、日本一を目指して頑張ります」と誓ってくれました。

▲能代工業高校バスケットボール部へ白神米を寄贈

▲目を凝らして生物を探す児童

生き物調査で田んぼ周辺の生態を学ぶ　営農企画課

ＪＡあきた白神はＪＡ全農あきたの協力のもと、６月18日、「田んぼの生き物調査」を実施しました。能代市立第四小学校の５年生94人が参加し、先月、自分たちで田植えをした圃場で調査を行いました。

調査ははじめに、裸足で田んぼの中に入り、網を使って田んぼの中の生き物を探したあと、植物・陸生動物・水生動物の３班に分かれて田んぼの周辺を調査しました。児童らは、担当者の説明を受けながら、ヤゴやカエル、コガムシなどを採取しました。また、植物ではマンネングサやヨモギなどを採取し、児童らは携帯用ミニ図鑑と見比べながら動植物の名前や特徴に理解を深めました。

浅内小学校の児童が「白神ねぎ」の定植に挑戦！　経済課

地元の特産の野菜を栽培しようと能代市立浅内小学校の５年生の児童16人が６月７日、総合的な学習の時間で「白神ねぎ」の定植に挑戦しました。ＪＡからは経済課の伊藤隆一課長と平川和弘課長補佐が講師となり児童を指導しました。

作業は、畝立て機を使った畝作りから始まり、先生と児童が一緒になって約10mの畝を４列作り「ひっぱり君」を使って定植作業を楽しみました。児童からは「ひっぱり君が重かったけどまっすぐ植えることができて楽しかった」といった感想が聞かれました。今回定植した「白神ねぎ」は同校で行われる学校祭で販売される予定となっています。

▲「ひっぱり君」を使って定植する児童

▲ＪＡの説明を受ける児童

地元小学生がＪＡの仕事を学ぶ　のしろ東支店

能代市立第五小学校の２年生の児童６人が６月15日、生活科の授業でのしろ東支店を訪れました。これは「町たんけん」という学習で、自分たちが生活する地域に出かけ、様々な場所を調べ、人と接することを通して地域に親しみや愛着をもってもらうことを目的としています。

支店を訪れた児童らには大塚英樹支店長が対応し、ＪＡが行っている様々な仕事の内容や地域への役割などを説明しました。支店を訪れた児童からは「ＪＡがこんなにたくさんの仕事をしているとは思わなかった」や「お客さんの大切なものを守っていることがよくわかった」といった感想が聞かれました。

蟹座（6・22～7・22）　やたらと人を当てにせず「自分のことは自分で行う」姿勢が幸運の鍵に。玄関の掃除が開運を招きそう